第 2 学 年　　国 語 科 学 習 指 導 案	
題　　材	◎古典に親しむ 「枕草子」　清少納言　　（　光村図書　）
目　　標	○ 古文の音読を通して、古文独特のリズム感や優れた表現を味わうことができる。 ○ 「枕草子」に描かれている季節感を読み味わい、自分が感じる四季の季節感と比べることができる。 ○ 筆者の豊かな感性に学び、「現代版　枕草子」を書くことができる。
指導計画	全５時間扱い 第一次　枕草子第一段に描かれている世界を読み味わう。 ---------- ２時間 第二次　枕草子の他の段を読み味わう。 ---------- １時間 第三次　「現代版枕草子」を創作し発表し合う。 ---------- １時間（本時） 第四次　まとめと暗唱の確認をする。 ---------- １時間
指 導 上 の 立 場	(1)　題材について 本題材は日本の古典随筆文学の代表である「枕草子」の学習がもとになっている。作者の簡潔な文章表現や豊かな感性は、千年を隔てた現代の中学生にもわかりやすく、共感をもって受けとめられると思われる。「現代版　枕草子」を書くことや発表することにより、「枕草子」との出会いをより身近に感じさせ、受け身で終わらせないよう工夫し、楽しみながら主体的に古典を学習しようとする態度を養いたいと考え、本題材を設定した。 (2)　生徒や学級の実態 削除しています。 (3)　本題材で工夫する点や手だて 古典の学習において、古文の特徴をとらえ、文章に慣れ親しむためには暗唱が効果的であると思われる。また、「枕草子」に描かれた情景や思いは身近で、現代にも通じるものであることを理解させ、自分の身の回りの季節感や感じ方を思い描かせ、「自分ならばどうか」ということを表現させたい。そして、お互いの作品を読み合うことにより、さまざまな視点や表現があることに気づかせたい。そして、それぞれの感性を認め合い、さらに良い表現を追究していく過程で、楽しさを味わわせたい。 (4)　研究主題との関連 本題材のねらいは、随筆という形で、自分の思いをつづることにある。学習のまとめとして、代表生徒の作品を発表するだけでなく、学習後に全員の作品掲示をし、それぞれの表現の良さや共感できる部分を評価し合える場を設定したい。「枕草子」の作品理解を助けるために、音読や暗唱に取り組ませるが、暗唱が苦手な生徒にも段階を設けて達成感を味わわせる工夫をしたい。個々の感性を表現する創作で「書くこと」に意欲的に取り組ませ、発表や感想を述べ合うことで「話すこと」のレベルアップを目指したい。

本時の展開

本　時　案（第三次の第１時）	
目　標	○筆者の考えと比べながら自分なりの感性を生かした「現代版　枕草子」を書く。（書く） ○たがいの作品を読み合い、感想をもち評価し合う。（関心・意欲・態度）

学習活動	教師の支援及び指導上の留意点
1　本時の目標を確認する。	○自分の思いを文章にすることで、枕草子への理解をさらに深めることがねらいであることを示す。
自分の感性をいかした「現代版　枕草子」を書こう。	
2「枕草子」を声に出して読む。 (1)　範読を聞く。 (2)　声を合わせて読む。	○これまでの学習の成果が出せるように、しっかりと声を出すよう指示する。 ○理解を深めるためにも、音読が有効であることを伝え、クラスの雰囲気を盛り上げる。 ○復習をかねて、映像を見せる。 ○声に出して読むことが暗唱にもつながることを伝える。 ○周りの声を聞きながら、はっきりと声を出すよう助言する。
3　自分の考えた「現代版枕草子」を書く。 (1)　「ものづくし」のテーマを一つ選ぶ。 (2)　思いついたことをメモする。 (3)　原作の文体を意識して簡潔な文章にする。	○机間指導をしながら生徒の音読の様子を確認する。 ○題材選びは、自由に考えさせるが、思いつかない場合には、例から選べばよいことを助言する。 ○原作を参考にして、いくつかの事柄を、具体的に書いていくよう指示する。 ○題材を探したら、その説明をするよう指示する。 ○行き詰まったら、隣の生徒と相談してみることを勧める。 ○歯切れの良い、短い文にするとよいことを示唆する。 ★　評価Ｃ（書くこと）の生徒に対する手だて ・型を示し、三つ程度の事柄をまずあげ、それについて、どんな点がすばらしいのかを説明させる。
4　グループで発表し合い、感想を述べ合う。	○聞くときは聞く、その後、感想を述べるという手順を確認する。 ○具体的な事柄をあげて書いているかを確認する。 ○人の作品のいいところを見つけて、評価し合うよう指示する。 ○全員の発表が終わったら、話し合って発表者を決定する。
5　グループの中の優秀作品を紹介する。	○推薦者が、どこがすばらしいかを一言添えて、優秀作品を発表することを伝え、その場の意識づけを行う。 ○発表は、全体に聞こえる声量、適度な速さで行うよう指示し、教師が模範を示す。
6　本時のまとめと次時の予告をする。	○自分が思っていることと、友達が思っていること、また清少納言の表現していることの共通点や相違点を見いだし、今後の古典学習への興味を喚起する。 ○次時の予告をする。
準　備	テレビ・パソコン・ワークシート

評価の観点	評価の基準		具体的方法
	A基準	B基準	
・書くこと	・自分の感性で趣のあるものをあげ、表現力豊かに、書いている。	・自分の感じたことを具体的にあげ、簡潔な文体で書いている。	・ワークシート
・関心・意欲・態度	・積極的にグループ内で話し合いをしている。	・グループの中で、感想を述べ合うことができる。	・観察